

学校法人聖光学園 幼保連携型認定こども園菖蒲幼稚園
平成30年度 自己評価結果報告書

1. 園の教育目標 〈心身共に健全なる子どもの育成〉

- ・丈夫な体で元気がよい子
- ・自分のことは自分でする子
- ・友だちと仲良く遊ぶ子
- ・何にでも生き生きと興味を持つ子
- ・思ったことははっきり話し人の話をよく聞く子
- ・いろいろ創意工夫したことを楽しんで表現する子

2. 本年度、重点的に取り組むべき目標や計画

保護者に園を公開し、子どもたちの生活の様子を見ていただくことで園の教育方針を理解してもらおうとともに、信頼関係がより深められるようにする。

3. 具体的目標・計画

① 教育課程・指導について

季節やその時期の環境に配慮しながら保育を行う。

各学期に保護者が保育参加できる期間を設ける。

自分の親ではない大人との交流、自分の子ではない幼児との交流を通じ、互いに相手の気持ちを理解しようとする心情・態度を養う。

- ・月毎に目標を定め、その時期ならではの留意点を明確にして保育を行うよう心がけた。
- ・保護者の一日保育者体験を引き続き行った。29年度は新入園児保護者と希望者とした。

② 保健管理について

幼児に対する日常の健康観察

環境検査の実施

感染症対策（手指消毒、除菌）

- ・幼児の健康観察は、登園した際に視診を行い具合の悪そうな場合は検温したり、注意深く様子を観察するように心がけている。
- ・保育園では健康チェック表を活用。0歳児は毎朝検温。
- ・園薬剤師に依頼して空気、照度、騒音、水質の検査を実施した。（6月と2月）
- ・手指消毒液と除菌用薬剤、使い捨てビニール手袋を常備。
- ・4月に職員健康診断実施。
- ・5月に園児健康診断（保育園児は11月も）、6月に歯科検診を実施。

③ 安全管理について

園庭遊具の安全点検並びに修繕等

緊急地震速報装置・防犯カメラ・110番通報装置の点検整備

園庭側昇降口の安全

- ・「園生活のしおり」の中に災害時の引取方法について記載した。
(あわせて引取者登録カード、園児引渡カードを作成、保護者に配布・回収)
- ・1学期、避難訓練と合わせて引渡(引取)訓練を行った。
- ・木製遊具(汽車)の修繕を行った。
- ・110番通報装置の法定点検を実施した。(6月と11月)
- ・久喜市による放射線測定を行った。

④ 特別支援教育について

学年を中心に支援を要する子どもへの対応について協議をし、園全体で協力体制を築くことで、子どもの成長発達の援助を行う。
また、外部講師とともに幼児一人一人に対する個別指導のあり方を研究する

- ・園内委員会は主任会議が兼任するものとするが、特別支援コーディネーターは当該幼児の担任を充て、特別支援学校主催の研修会に参加した。
- ・市の家庭児童相談員の方と連携を図り、家庭支援を行える体制を築いた。

⑤ 組織運営について

教職員への就業規則の周知(年度当初)
教職員への情報の取り扱い方針の周知(年度当初)
災害対応マニュアル等、各種マニュアルの整備

- ・4月、辞令交付後に教職員で就業規則の読み合わせを行った。
あわせて個人情報取り扱い、守秘義務について周知した。
- ・認定こども園移行に伴い、危機管理マニュアル、災害対応マニュアル、児童虐待防止マニュアル等を整備した。

⑥ 研修(資質向上の取り組み)について

新採研・三年次研修・幼稚園教育研究協議会・保育実践研究協議会・埼北地区教員研修会等への参加
保育園については、幼保一体化園研修会への参加
園内研修(幼児理解)の実施

- ・新規採用教員研修(年10回)…齋藤、福
- ・園長主任研修会…園長、古泉、奥野
- ・全埼私幼連中堅教員研修…松村
- ・私立学校人権教育研修会…
- ・全日私幼連設置者園長研修会…園長
- ・関東地区教職員大会…園長
- ・東部地区人権教育研修会…松村
- ・全埼私幼連保育実践研究協議会…園長、古泉、奥野、鈴木、入江、松村、宇塚、星、岡本、間下

- ・発達障害児支援のための園長等管理職研修…柘嶋
- ・食物アレルギー講習会…柘嶋
- ・埼北地区研修会…古泉、奥野、鈴木、入江、津田、松村、宇塚、猪野、間下、齋藤
- ・幼保一体化園研修会(2回)…柘嶋、根岸、益子、星、春山、岡本、福、
- ・全埼私幼認定こども園研修会…園長、柘嶋、根岸、益子、星、春山、福、
- ・全埼私幼連教職員研修大会…園長、奥野、鈴木、津田、間下
- ・4団体教育交流会…園長
- ・埼玉県幼稚園教育研究協議会…春山、
- ・合同就職説明会…園長、古泉、津田
- ・支援センター担当者連絡協議会(2回)…柘嶋、金沢
- ・久喜市特別支援コーディネーター研修…津田、
- ・幼保小連絡協議会…宇塚
- ・童虐待防止・発達支援研修…柘嶋
- ・久喜市事業所説明会…園長、事務長、根岸、
- ・教員免許状更新講習…根岸、鈴木、入江、津田、長谷川
- ・保育士等キャリアアップ研修…柘嶋、根岸

⑦ 情報提供について

- 園生活のしおり（年度当初）
- 園だより（毎月）
- 募集要項（入園対象児保護者）
- 携帯メール連絡網による情報提供

- ・上記資料により、情報提供を行ったほか、保育園では送迎時にホワイトボードを用いて諸連絡等の情報提供を行った。
- ・携帯メールの防犯情報は、「慣れ」を防ぐ意味でごく近隣地域の情報のみ配信した。

⑧ 保護者・住民との連携

- 父母の会との連携による行事運営
- わんわんクラブ活動（交通安全・防犯指導・エコ・食育）
- 上記以外の保護者の保育参加、地域住民の保育参加のあり方の検討

⑨ 子育て支援（預かり保育を含む）

- 地域子育て支援センターの運営**
- 父母の会との共催で教養講座の開催
- 毎月の園だよりによる子育て情報の発信
- 一日先生体験「にこにこママ(パパ)先生の実施

- ・26年4月から開設した地域子育て支援センター「ぼびーるーむ」も5年目を迎え地域における認知度も高くなり、イベント等の活動内容の充実に伴い参加者が増えた。未就園児教室「ジュニアサークル」のプレ幼稚園としての役割と、乳児を持つ親が気軽に立ち寄れる集いの場所としての役割を担った。
- ・父母の会の協力により、各種行事を滞りなく開催することができた。

- ・お母さん先生による交通安全指導・防犯指導を行った。(3回)
- ・保育部では、親支援事業として「おまつりごっこ」、「保育参加体験」を行った。
- ・園行事の際、シルバー人材の方に駐車場誘導係を協力していただいた。
- ・4月の父母の会総会后、齋藤統衛先生による子育て講演会を開催。
演題「身近な材料を使った造形遊び」
- ・「しつけ事典」から子育てのアドバイスを抜粋、毎月の園だよりで情報発信した。
- ・教育部・保育部で、保護者の保育者体験事業として「にこにこママ(パパ)先生」を実施した。参加4回目、5回目と毎回のように参加される保護者も多くなった。

⑩ 教育環境整備

- ・バザー寄附金・卒園記念で運動会用入退場門と万国旗を購入した。

<全体を通しての自己評価>

- ・30年度から認定こども園に移行した。移行後も事務処理等が変わったことで煩雑さを感じるが多かったが、施設型給付になったことにより職員の処遇改善を図ることができたことは大きなプラスである。
- ・一方で、制度が変わっても一年間の流れや内容などがなるべく変わらないように心がけたが、やはり支障があった。(園行事見直しの必要、預かり保育利用者増による職員配置、父母の会の負担軽減、職員の代休・有休取得など)
- ・2019年10月から幼児教育保育の無償化が実施されることになるが、就労する保護者が増え、預かり保育利用者の増加が懸念される。極力教育・保育の質を落とさず見直しを図れるか、2019年度中に検討する必要がある。
- ・30年度も進級児・新入園児をあわせ、特別な支援を要する子どもが数名在園していた。市の家庭児童相談員や保健センターと連携を図り、個々に適した指導を行うよう心がけた。しかし、保護者へ働きかけても医療機関へ繋がられない事例もあった。
- ・さくら組・ふじ組を除く保育室等のLED化や旧型エアコンの入れ替え、遊戯室棟のガラス飛散防止フィルム工事、支援センター棟屋根の塗装など、園舎・設備の整備や維持管理について未着手である。ここ数年来の懸案事項であり、優先順位をつけ園の経営を圧迫しないよう国・県・市の補助金を活用しながら順次整備していきたい。

<学校関係者による評価>

- ・忙しい中にもかかわらず先生方が様々な研修会に参加し、自分自身を高めようとしていることに感銘した。
- ・このところ、園バスの事故や、散歩中に園児が巻き込まれる事故などが起きている。これまでも十分気を付けているとは思いますが、引き続き注意をお願いする。
- ・防犯、防災についても同様である。